

## ① 危機管理体制の強化について

1月24日は未曾有の大寒波に襲われ、各地で大雪となり、長崎市では110年前の統計以来最高となる17センチの積雪を記録しました。積雪の影響で道路や交通機関がマヒしたため、25日は大半の学校は臨時休校を決め、会社も臨時休業または自宅待機とするところもありました。

記録的な大雪の影響で、県内では車のスリップ事故が多発し、転倒などで1人が重傷、5人が軽いけがと報道されています。40年ぶりの大雪で想定外の事は十分理解しておりますが、長与町の危機管理体制は十分に機能されたのでしょうか。対応は初動がとても重要です。

また、私の住んでいるまなび野東自治会では当日が粗大ゴミの日でありました。町民の方々は、この雪で回収されるのか、年に2回しかないからと大雪の中持って来られる方もいらっしゃいました。しかし、粗大ゴミに雪が積もり、ゴミが見えなくなる危険があります。収集場所は子ども達が遊ぶ公園ですので、どんな危険があるか予想できない状況であります。何よりも安全が優先されるべきと考えます。

町民の方々が安全・安心に暮らすためには危機管理体制の一層の強化が必要です。そこで以下の質問を致します。

- (1) 1月24日の大雪警報発表後の防災対策について伺います。
- (2) 長与町地域防災計画がどのように活かされたか伺います。
- (3) ひとり暮らしまたは高齢者のみ世帯への対応を伺います。
- (4) 自然災害に向けての危機管理体制の強化をどう考えるか伺います。
- (5) 安全で健康な暮らしのニーズの高まりを背景に、WHO(世界保健機関)が推奨するセーフコミュニティの認証が東日本大震災以降、関心が急速に高まっています。長与町の考えを伺います。

## ② 聴覚障害者支援について

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が平成28年4月1日より施行されます。この法律は、障害のある人への差別をなくすことで、障害のある人もない人も共に生きる社会をつくることを目指しています。

私は、がんばらば国体・大会に情報支援ボランティアとして要約筆記パソコンで参加した後、要約筆記者養成講座を受け、聴覚障害支援に少し携わっております。

乳幼児の健康診断における聴力検査で軽度難聴や片耳難聴などの発見が早い段階でできるようになりましたが、その後の進学など、聴力を補うための支援は十分とは言えません。補聴器、人工内耳など高額になる場合もあり、難聴児を抱える家庭にとっては、経済的に大きな負担となり、家計を圧迫している実態があります。

そこで、長与町の取り組みについて質問致します。

- (1) 聴覚障害者と聴覚障害児の現状を伺います。
- (2) 聴覚検査の現状と課題を伺います。
- (3) 補聴器購入助成制度について伺います。
- (4) 難聴児への授業支援について伺います。
- (5) 手話言語法についての町の考えを伺います。
- (6) 長与町の行事開催時の要約筆記パソコンの現状と課題を伺います。